

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校

学科名：医療保育科

授業科目名	単位数
英語 I A	1
英語 I B	1
保育原理A	1
保育原理B	1
保育者論A	1
保育者論B	1
保育の心理学 I A	1
保育の心理学 I B	1
社会福祉A	1
合計	9

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語 I A		
必修選択	選択	(学則表記)	英語 I A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	保育の英会話 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	園生活で英語が必要とされることがあるため、英語での対応が必要になった時に役立てることができるように練習を十分取り入れ、文法力・単語力および基礎的な会話力を習得する。				
到達目標	外国人の子どもや保護者が入園した際に役立つ英語や、園生活等で必要とする文法・単語・熟語を理解し基本的な会話を行うことができる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	英語 I B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	Darcy Lewis	実務経験	○		
実務内容	専門学校非常勤講師として15年勤務、塾講師、英会話講師				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育の英会話への第一歩	【第1講】英会話の楽しさについて Unit 1: First Step to Childcare English
3	みなと保育園にようこそ	【第2講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 2: Welcome to Minato Nursery School
4	時間と数	【第3講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 3: Time and Numbers
5	地図と道案内	【第4講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 4: Directions

6	クラスメイトとの出会い	【第5講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi
7	デイヴィーの登園と降園	【第6講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
8	保育者の仕事	【第7講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 7: Jobs at Nursery School
9	保育者の仕事	【第7講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 7: Jobs at Nursery School
10	昼食	【第8講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 8: Lunchtime
11	昼食	【第8講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 8: Lunchtime
12	排泄に関する会話	【第9講】状況に応じたコミュニケーションを学ぶ。 Unit 9: Toilet Dialog
13	けんか	【第10講】状況に応じたコミュニケーションを学ぶ。 Unit 10: Fighting
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語 I B		
必修選択	選択	(学則表記)	英語 I B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	保育の英会話 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	テキストにある「英語ミニ知識」「保育ミニ知識」を活用し 英語の常識や他国の習慣にも目を向け、国際感覚を養い、英語が高まる学習をする				
到達目標	園生活で必要とする英会話を使ってコミュニケーションを取ることができる				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	英語 I A				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	Darcy Lewis	実務経験	○		
実務内容	専門学校非常勤講師として15年勤務、塾講師、英会話講師				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	けがと病気	【第11講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 11: Injuries and Illnesses
3	けがと病気	【第11講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 11: Injuries and Illnesses
4	電話での対応	【第12講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 12: Telephone Calls
5	遠足	【第13講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 13: Field Trip

6	赤ちゃんのケア	【第 14 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 14: Baby Care
7	赤ちゃんのケア	【第 14 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 14: Baby Care
8	卒園	【第 15 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 15 Graduation Day
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第 1～5 講のまとめ
12	総まとめ	第 6～10 講のまとめ
13	総まとめ	第 11～15 講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理 A		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理 A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	① 生活事例からはじめる保育原理 第5版 ② 平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 ③ 学習の手引き			出版社	① 青踏社 ② チャイルド社

科目の基礎情報②

授業のねらい	「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に保育者に求められる専門性について理解し、保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく				
到達目標	保育の歴史と変遷を知り、子どもの発達や生活や遊びについて述べることができる 保育実践の事例を拾い、他の人と共有できるように書くことができる				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	保育原理 B/保育者論 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 加奈子	実務経験	○		
実務内容	保育士12年7か月、保育士養成校専任教員3年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育を学ぶということ	「保育」について
3	保育を学ぶということ	「保育」について
4	子ども理解	子どもについて

5	子ども観・保育観	日本の保育思想について
6	子ども観・保育観	日本の保育思想について
7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規について
8	幼稚園・保育所・ 認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能について
9	幼稚園・保育所・ 認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能について
10	保育の目標と内容	保育の目標と内容について
11	保育の目標と内容	保育の目標と内容について
12	保育の内容	「領域」の考え方について
13	保育の内容	幼稚園教育要領における保育内容について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	保育原理B	
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理B	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1 15
使用教材	①生活事例からはじめる保育原理 第5版 ②平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 ③学習の手引き		出版社	①青踏社 ②チャイルド社
科目の基礎情報②				
授業のねらい	「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に保育者に求められる専門性について理解し、保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。			
到達目標	保育者に求められる専門性について、保育の現状と課題について述べることができる			
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない			
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 			
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許			
関連科目	保育原理A/保育者論A・B/乳児保育A・B/保育カリキュラム論A・B			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する			
担当教員	中村 加奈子	実務経験	○	
実務内容	保育士12年7か月、保育士養成校専任教員3年間勤務			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育の計画と評価	保育の計画と評価について
3	保育の計画と評価	保育の計画と評価について
4	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違いについて

5	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違いについて
6	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題について
7	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について
8	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第1～5講のまとめ
12	総まとめ	第6～10講のまとめ
13	総まとめ	第11～15講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	保育者論A	
必修選択	必修	(学則表記)	保育者論A	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1 15
使用教材	保育者論—主体性のある保育者を目指して 学習の手引き		出版社	萌文書林
科目の基礎情報②				
授業のねらい	本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。			
到達目標	専門職としての保育者の専門性を理解する。 保育者に求められている役割を理解する。 自分なりの保育観を確立する。 保育者の制度的な位置づけを理解する。 保育者の仕事と役割を理解する。 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。			
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない			
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者			
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許			
関連科目	保育者論B/保育原理A・B/乳児保育A・B/保育カリキュラム論A・B			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する			
担当教員	竹内 弘子	実務経験	○	
実務内容	幼稚園教諭10年、保育士4年、保育教諭4年、保育士養成学校教員6年			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育者とは	保育、保育者について
3	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割について
4	保育士とは	保育士の役割について

5	保育教諭および施設で働く保育者	保育教諭の役割について
6	保育の現代的な問題	子どもの最善の利益について
7	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について
8	保育者の資質・能力	保育者の専門性について
9	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて
10	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて
11	保育の質の向上	保育の質の向上について
12	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCA サイクルについて
13	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCA サイクルについて
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	保育者論B	
必修選択	必修	(学則表記)	保育者論B	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1 15
使用教材	保育者論—主体性のある保育者を目指して 学習の手引き		出版社	萌文書林
科目の基礎情報②				
授業のねらい	本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。			
到達目標	専門職としての保育者の専門性を理解する。 保育者に求められている役割を理解する。 自分なりの保育観を確立する。 保育者の制度的な位置づけを理解する。 保育者の仕事と役割を理解する。 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。			
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない			
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者			
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許			
関連科目	保育者論 A/保育原理 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する			
担当教員	竹内 弘子	実務経験	○	
実務内容	幼稚園教諭10年、保育士4年、保育教諭4年、保育士養成学校教員6年			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	園内の保育者チームおよび家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について
3	園内の保育者チームおよび家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について
4	専門機関や地域との連携	保育者として連携すべき様々な専門機関等について

5	専門機関や地域との連携	保育者として連携すべき様々な専門機関等について
6	保育者の葛藤と成長	保育者としての葛藤について
7	保育の現代的な問題②	保育者として働き続けるための心の持ち様、必要なスキルについて
8	保育者を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びについて
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第 1～5 講のまとめ
12	総まとめ	第 6～10 講のまとめ
13	総まとめ	第 11～15 講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学 I A		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学 I A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	実践につながる新しい保育の心理学 学習の手引き		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について習得する。 主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。				
到達目標	子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を実践に生かすことができる。 保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を述べる事ができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・期末テスト（修得確認）：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子ども家庭支援の心理学 A、子ども家庭支援の心理学 B、保育の心理学 I B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	堀 琴美	実務経験	○		
実務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科クリニックで心理カウンセラーとして病院臨床。 ・福島県の福祉施設（婦人相談所）で福祉臨床。 ・郡山女子大学学生相談室（教員と兼務）で学校臨床。 				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達を理解する意義	授業の流れ、到達目標について 保育者が子どもの発達を学ぶ意義について①（第1章）
2	子どもの発達を 理解することの意義	保育者が子どもの発達を学ぶ意義について②（第1章）
3	子どもの発達と環境	子どもの発達に影響を与える環境について①（第2章）
4	子どもの発達と環境	子どもの発達に影響を与える環境について②（第2章）

5	子ども観・保育観と 発達理論からの視点	子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点について①（第3章）
6	子ども観・保育観と 発達理論からの視点	子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点について②（第3章）
7	社会情動的発達	社会情動的発達について①（第4章）
8	社会情動的発達	社会情動的発達について②（第4章）
9	身体機能と運動機能の発達	身体機能や運動機能（全身運動と手指の操作）の発達について①（第5章）
10	身体機能と運動機能の発達	身体機能や運動機能（全身運動と手指の操作）の発達について②（第5章）
11	認知の発達	ピアジェの発達理論から認知の発達について①（第6章）
12	認知の発達	ピアジェの発達理論から認知の発達について②（第6章）
13	言語の発達	言語発達について（第7章）
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学 I B		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学 I B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	実践につながる新しい保育の心理学 学習の手引き		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について習得する。 主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。				
到達目標	子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を実践に生かすことができる。 保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を述べる事ができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・期末テスト（修得確認）：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子ども家庭支援の心理学 A、子ども家庭支援の心理学 B、保育の心理学 I A				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	堀 琴美	実務経験	○		
実務内容	・精神科クリニックで心理カウンセラーとして病院臨床。 ・福島県の福祉施設（婦人相談所）で福祉臨床。 ・郡山女子大学学生相談室（教員と兼務）で学校臨床。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション アセスメント	後期の授業の流れ、到達目標について アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性について①（第8章）
2	アセスメント	アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性について②（第8章）
3	0、1、2歳の発達	誕生から2歳ごろまでの発達の特徴と発達課題について① （第9章）
4	0、1、2歳の発達	誕生から2歳ごろまでの発達の特徴と発達課題について② （第9章）

5	3、4、5歳の発達	3歳～5歳の発達の特徴と発達課題について①（第10章）
6	3、4、5歳の発達	3歳～5歳の発達の特徴と発達課題について②（第10章）
7	学童期から青年期までの発達	学童期、青年期の特徴について（第11章）
8	成人期から老年期までの発達	成人期の心理とライフイベントに伴う心理的葛藤について 老年期の加齢に伴う現象と成熟する側面について（第12章）
9	乳幼児期の学びに関する理論	学びに関する理論について（第13章）
10	乳幼児期の学び（遊び）の 過程と特性	「遊ぶこと」の意味や遊びの機能について（第14章）
11	乳幼児期の学び（遊び）を 支える保育	主体的に遊ぶということについて（第15章）
12	まとめ	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえた発達の視点について①
13	まとめ	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえた発達の視点について②
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	社会福祉 A	
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉 A	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1 15
使用教材	①生活事例からはじめる 新版 社会福祉 第10版 ②学習の手引き		出版社	①青踏社
科目の基礎情報②				
授業のねらい	保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。			
到達目標	① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について説明できる。 ② 社会福祉の制度や実施体系について説明できる。 ③ 社会福祉における相談援助について説明できる。			
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校での成績に影響しない。			
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者			
関連資格	保育士資格			
関連科目	社会福祉 B、子ども家庭福祉 A/B、社会的養護 I A/B、子ども家庭支援論 A/B			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する			
担当教員	武内 玲美	実務経験	○	
実務内容	道立高校教諭			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、「ノーマライゼーション」について（第1章 1-1、1-2）
3	社会福祉の理念と課題②	社会福祉の「ニーズ」「社会参加」について（第1章 1-3、1-4）

4	社会福祉の理念と課題②	社会福祉の「ニーズ」「社会参加」について（第 1 章 1-3、1-4）
5	社会福祉の理念と課題③	社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何かについて（第 1 章 1-5、1-6）
6	社会福祉の理念と課題③	社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何かについて（第 1 章 1-5、1-6）
7	社会福祉の歴史の変遷①	貧困問題の取り組みや貧富の原因、歴史の変遷について（第 1 章 2-1、2-2）
8	社会福祉の歴史の変遷①	貧困問題の取り組みや貧富の原因、歴史の変遷について（第 1 章 2-1、2-2）
9	社会福祉の歴史の変遷②	国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かについて（第 1 章 2-3）
10	社会福祉の歴史の変遷②	国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かについて（第 1 章 2-3）
11	社会福祉と児童家庭福祉	社会福祉と子ども家庭福祉の関連性について（第 1 章 3-1、3-2、3-3）
12	社会福祉と児童家庭福祉	社会福祉と子ども家庭福祉の関連性について（第 1 章 3-1、3-2、3-3）
13	児童の権利擁護	「子どもの人権擁護」に基づく支援のあり方について（第 1 章 3-4）
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉B		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	①生活事例からはじめる 新版 社会福祉 第10版 ②学習の手引き		出版社	①青踏社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。				
到達目標	① 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて説明できる。 ② 社会福祉の動向と課題について説明できる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	社会福祉A、子ども家庭福祉A/B、社会的養護I A/B、子ども家庭支援論A/B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	武内 玲美	実務経験	○		
実務内容	道立高校教諭				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	社会福祉の制度①	「社会福祉にかかわる法律」について（第2章1-1）
3	社会福祉の制度②	「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について（第2章1-2～1-4）
4	社会福祉の制度②	「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について（第2章1-2～1-4）

5	社会保険	「社会保険」の仕組み、「社会福祉の専門職」について（第 2 章 2-1～3-2）
6	利用者を保護する仕組み	「第三者評価」「苦情解決の仕組み」「権利擁護」について（第 2 章 4-1～4-3）
7	社会福祉における相談援助①	社会福祉の専門技術、相談援助の基礎について（第 3 章 1-1～1-4）
8	社会福祉における相談援助②	「ケースワーク」「グループワーク」の方法について（第 3 章 2-1～2-3）
9	社会福祉における相談援助③	「ケースワーク」「グループワーク」の方法について（第 3 章 2-1～2-3）
10	社会福祉の動向と課題①	少子高齢化における社会福祉の動向について（第 4 章 1-1～1-4）
11	社会福祉の動向と課題②	共生社会の実現と障害者施策の概要について（第 4 章 2-1～3-3）
12	総まとめ①	社会福祉の制度や実施体系について
13	総まとめ②	社会福祉における相談援助について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ④	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉A		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭福祉A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	・「児童の福祉を支える 子ども家庭福祉」吉田眞理 ・学習の手引き		出版社	萌文書林 改訂版 (2019年初版)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	わが国では、子どもの貧困、児童虐待、障害児の療育など児童福祉の課題が山積するとともに、待機児童対策が急がれている。保育士は、すべての子どもの立場に立つことができる児童福祉職であり、子どもの存在を「人」として、「命」そのものとして理屈抜きで受け止められる専門職である。その保育士に必須といえる、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度を身に付ける。				
到達目標	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できるようになる。 ②子どもの人権擁護について理解し説明できる。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し説明できる。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解し説明できる。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解し説明できる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子ども家庭福祉B/社会福祉A・B/社会的養護ⅠA・B/子ども家庭支援論A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	武内 玲美	実務経験	○		
実務内容	道立高校教諭				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れと到達目標について
2	子ども家庭福祉の理念と概念	児童家庭福祉の実際の活動内容、実践対象と方法について
3	子ども家庭福祉の歴史の変遷	児童家庭福祉の歴史、児童家庭福祉の理念、現代の児童家庭福祉を理解する基礎について

4	現代社会と子ども家庭福祉	現代社会における子育ての実態、児童家庭福祉の必要性について
5	同上	我が国の世帯構造や生活意識の変化、現代家庭の在り方について
6	子どもの人権擁護 1	児童の権利擁護について 児童の権利に関する条約について
7	子どもの人権擁護 2	第4講の学びをもとに子どもの権利を護る仕組みについて 第三者評価事業、苦情解決の仕組み、子どもの権利ノートについて
8	子ども家庭福祉の制度と法体系	子ども家庭福祉の制度と法体系について、保育分野における諸制度について 保育・福祉の法体系の全体像について
9	子ども家庭福祉行財政と実施機関	子ども家庭福祉を支える機関やその実務内容について 児童関係の実務について
10	児童福祉施設等	乳児院、児童養護施設をはじめとする児童福祉施設の概要について学ぶ
11	同上	同上
12	子ども家庭福祉の専門職・実施者	子ども家庭福祉の専門職や実施者のそれぞれの職場と仕事について
13	少子化と地域子育て支援、母子保健	母子保健分野の取り組みについて
14	修得確認	期末試験を実施
15	総まとめ	これまでの内容の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉 B		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭福祉 B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	・「児童の福祉を支える 子ども家庭福祉」 ・学習の手引き		出版社	萌文書林 改訂版 (2019 年初版)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	わが国では、子どもの貧困、児童虐待、障害児の療育など児童福祉の課題が山積するとともに、待機児童対策が急がれている。保育士は、すべての子どもの立場に立つことができる児童福祉職であり、子どもの存在を「人」として、「命」そのものとして理屈抜きで受け止められる専門職である。その保育士に必須といえる、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度を身に付ける。				
到達目標	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できるようになる。 ②子どもの人権擁護について理解し、説明できる。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、説明できる。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解し、説明できる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子ども家庭福祉 A/社会福祉 A・B/社会的養護 I A・B/子ども家庭支援論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	武内 玲美	実務経験	○		
実務内容	道立高校教諭				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	多様な保育ニーズへの対応	地域における多様な保育サービスの展開について
2	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、社会的養護	児童虐待の実態、対応について
3	障害のある児童、少年非行等への対応	在宅障害児の地域の暮らしと支援する制度、少年非行について

4	ひとり親家庭、子どもと食育	ひとり親家庭の現状について、保育者としての支援について
5	子ども家庭福祉の動向と展望	子ども家庭福祉の方向性、保育を視点とした取り組みや隣接分野との連携の在り方について
6	修得確認	修得確認の試験実施
7	子ども家庭福祉の理念と概念、歴史的変遷、現代社会と子ども家庭福祉	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
8	子どもの人権擁護	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
9	子ども家庭福祉の制度と法体系、行財政と実施機関	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
10	児童福祉施設等、子ども家庭福祉の専門職・実施者	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
11	少子化と地域子育て支援、母子保健、多様な保育ニーズへの対応	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
12	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、社会的養護、障害のある児童、少年非行等への対応	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
13	ひとり親家庭、子どもと食育、子ども家庭福祉の動向と展望	周辺知識等の調査・ワークにより、学びを深める内容を実施する
14	期末テスト	期末試験を実施
15	総まとめ	本科目で実施した内容の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	乳児保育 I A		
必修選択	選択	(学則表記)	乳児保育 I A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	コンパス 乳児保育 学習の手引き		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本科目では、0歳から3歳未満児の発達を理解し、基礎知識を学ぶ。保育所保育指針の踏まえ、子どもの生活を多角的にとらえることにより、子どもの健康や安全、望ましい育ちや環境など、保育現場、育児現場などにおける保育の在り方を考える。また、保育所における乳児保育の特質を知り、3歳未満児に求められる養護と教育とは何かを学ぶ。さらに、ケーススタディを通して、様々な現場で実際に活用できる援助方法を習得する。				
到達目標	①乳児に親しみをもち、保育者として望ましい態度を認識することができる。 ②3歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得することができる。				
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	乳児保育 A/保育者論 A・B/保育原理 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 加奈子	実務経験	○		
実務内容	保育士12年7か月、保育士養成校専任教員3年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・日本の乳児保育の課題を理解する
2	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・日本の乳児保育の課題を理解する
3	乳児保育の基本	乳児保育の日本社会の歴史的変遷と現代の乳児保育の社会的役割を理解する
4	乳児保育の基本	乳児保育の日本社会の歴史的変遷と現代の乳児保育の社会的役割を理解する

5	乳児保育の制度と課題	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場を理解する
6	乳児保育の制度と課題	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場を理解する
7	1歳未満児の発達過程からみる 保育内容	1歳未満児への望ましい支援と援助方法を理解する
8	1歳未満児の発達過程からみる 保育内容	1歳未満児への望ましい支援と援助方法を理解する
9	1歳以上3歳未満児の発達過程か らみる保育内容	1歳以上3歳未満児への望ましい支援と援助方法を理解する
10	1歳以上3歳未満児の発達過程か らみる保育内容	1歳以上3歳未満児への望ましい支援と援助方法を理解する
11	基本的生活習慣の獲得①	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (食事・排泄)を理解する
12	基本的生活習慣の獲得①	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (食事・排泄)を理解する
13	基本的生活習慣の獲得②	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (睡眠・衣服の着脱・清潔)を理解する
14	テスト	前期の範囲で修得確認を行う
15	前期総まとめ	前期で実施した内容の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	乳児保育 I B		
必修選択	選択	(学則表記)	乳児保育 I B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	コンパス 乳児保育 学習の手引き		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本科目では、0歳から3歳未満児の発達を理解し、基礎知識を学ぶ。保育所保育指針の踏まえ、子どもの生活を多角的にとらえることにより、子どもの健康や安全、望ましい育ちや環境など、保育現場、育児現場などにおける保育の在り方を考える。また、保育所における乳児保育の特質を知り、3歳未満児に求められる養護と教育とは何かを学ぶ。さらに、ケーススタディを通して、様々な現場で実際に活用できる援助方法を習得する。				
到達目標	①3歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得することができる。 ②保育現場で生かされる具体的な保育技能を身につけることができる。				
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	乳児保育 B/保育者論 A・B/保育原理 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 加奈子	実務経験	○		
実務内容	保育士12年7か月、保育士養成校専任教員3年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	乳児保育の計画と記録①	指導計画の理解と作成を行う
2	乳児保育の計画と記録②	個別配慮と環境・職員間の協働を理解する
3	乳児保育における連携	子育て支援のシステムと支援方法を理解する
4	食事の計画、提供及び評価・改善①	冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギーを理解する

5	食事の計画、提供及び評価・改善②	保育室での配慮を理解する
6	子育てをめぐる家族の権利と責任 ①	児童福祉法・教育基本法からの検討・演習を理解する
7	子育てをめぐる家族の権利と責任 ②	子どもの権利に関する条約について理解する
8	章末課題	各章の振り返り、現場実践に活かす手立てを理解する
9	総括①	乳児に親しみを持ち、保育者として望ましい態度を認識する
10	総括②	乳児に親しみを持ち、保育者として望ましい態度を認識する
11	総括③	乳児に親しみを持ち、保育者として望ましい態度を認識する
12	総括④	3歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得する
13	総括⑤	3歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得する
14	テスト	本科目の修得確認を行う
15	全体総まとめ	本科目で実施した内容の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	教育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	①中村弘行著「人物で学ぶ教育原理」 ②学習の手引き		出版社	①三恵社 第10刷改版発行	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶ。 ②教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。 ③教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにする。				
到達目標	①教育学の基礎的な「教育の本質や意義」について説明できる。 ②教育の歴史から教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について具体的に述べる事ができる。 ③子ども中心の経験や活動中心の教育理論や思想を理解した上で、今日的課題を説明できる。				
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭・保育士資格				
関連科目	教育制度論、教育相談				
備考	原則、この科目は対面授業形式とする				
担当教員	細田 奈津子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園13年、認定こども園3年、障害児施設4年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 教育の本質・意義	授業の流れ、到達目標について 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について
2	西洋の教育思想(17世紀～18世紀)	コメニウス、ロック、ルソーの思想について
3	西洋の教育思想(18世紀末～19世紀)	フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について
4	日本の教育思想(江戸～明治)	貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について

5	日本の教育思想（明治～昭和）	森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について
6	外国教育史①	古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史について
7	外国教育史②	同上
8	日本教育史①	古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史について
9	日本教育史②	同上
10	理想の教育実践①	学校制度成立以降のよりよい教育内容や方法について
11	理想の教育実践②	同上
12	各単元ごとのまとめ①	単元ごとのワークを行い復習
13	各単元ごとのまとめ②	単元ごとのワークを行い学びを復習
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育制度論		
必修選択	選択	(学則表記)	教育制度論		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科		15
使用教材	『新訂第 2 版 保育者・小学校教員のための教育制度論—この一冊で基礎から学ぶ』 学習の手引き		出版社	教育開発研究所	

科目の基礎情報②

授業のねらい	学校制度をはじめとする教育制度の基本的な仕組みや社会的役割を学ぶ。また、教育制度の改革の動向から、現代の教育における課題に対しどう対処しようとしているのかを学び、教育制度の問題解決的な側面を理解する。 それにより、子どもを取り巻く社会的制度的環境について自らの考えを深めることを目指す。				
到達目標	①学校や教育、保育に関する基本的な仕組みについて目的や具体的な決まりを説明できる。 ②現行の教育制度における様々な課題と解決に向けた取り組みについて説明できる。 ③子ども、教育者、教育実践、社会全体に資する教育制度の在り方について発表することができる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭免許				
関連科目	教育原理				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	細田 奈津子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園 1 3 年、認定こども園 3 年、障害児施設 4 年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育制度とは何か	教育を受ける権利を保障する仕組み、公教育の原理について（第 1 章・第 2 章）
2	学校教育に関する仕組み	学校の基本的な仕組みについて（第 3 章・第 6 章）
3	就学前の教育・保育に関する仕組み	就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みについて（第 4 章・第 5 章）

4	同上	同上
5	教育行政の仕組み	教育活動を支える作用について（第 9 章）
6	学校経営と学校・家庭・地域との連携に関する仕組み	学校経営に関する基本事項および学校・家庭・地域の連携を支える仕組みについて（第 10・11 章）
7	特別支援教育の仕組み	特別なニーズへの対応について（第 7 章）
8	同上	同上
9	子どもの安全・安心に関する仕組み	子どもの問題行動や事故について知り学校安全や安心について（第 12 章・第 14 章）
10	同上	同上
11	子育て支援の仕組み	保育・教育改革の動向、今後の課題について（第 15 章）
12	修得確認	期末テストの実施
13	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
14	同上	同上
15	同上	同上

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	人間関係		
必修選択	選択	(学則表記)	人間関係		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	実践につながる 新しい保育内容「人間関係」 学習の手引き		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	人は、生まれてまず「家族」という人間関係の中で生活を始め、徐々に関わりの世界を周辺に広げていく。幼児の人と関わる力の育ちは関わる対象や場面の中で生まれ、幼児教育はその礎である。本科目では幼児期の人間関係について全般的知識や課題を学ぶ。				
到達目標	① 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。 ② 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ③ 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許				
関連科目	人間関係指導法、言葉、環境				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	勝村 美由紀	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭約12年、保育士9か月、保育士養成校非常勤講師5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもを取り巻く現代社会の現状	子どもを取り巻く現代的課題と子どもの生活の変化、新しい時代に求められる教育的効果としての非認知能力、領域「人間関係」の成り立ちと目指すもの（第1章）
2	領域「人間関係」	0歳児のねらいと内容における「人間関係」、領域「人間関係」における1歳以上3歳未満児のねらいと内容、領域「人間関係」における3歳～5歳のねらいと内容（第2章）
3	0歳児における人間関係と援助	0歳児の心身の育ちと人間関係、人との関わりを育むあそび（第3章）
4	1～2歳児における人間関係と援助	1～2歳の心身の育ちと人間関係、人との関わりを楽しむあそび（保育者による支援）（第4章）

5	1～2歳児における人間関係と援助	1～2歳の心身の育ちと人間関係、人との関わりを楽しむあそび（保育者による支援）（第4章）
6	3～5歳児における人間関係と援助	3～5歳の心身の育ちと人間関係、人との関わりを育むための子ども理解、幼児期までに育ってほしい姿と小学校への接続（第5章）
7	3～5歳児における人間関係と援助	3～5歳の心身の育ちと人間関係、人との関わりを育むための子ども理解、幼児期までに育ってほしい姿と小学校への接続（第5章）
8	人との関わりが難しい子どもへの支援	集団生活に困難が伴う子どもとは、インクルーシブな保育に向けて（第6章）
9	子育て支援における人との関わり	子育て支援とは、園における保護者支援の種類と関わり、子育て支援センターにおける「おもちゃの広場」の実践例（第7章）
10	保育における現代的課題	ICT技術の発展と幼児期の影響、外国にルーツを持つ子どもや家族との関わり（第8章）
11	修得確認	第1講～4講までのまとめ
12	修得確認	第5講～8講までのまとめ
13	修得確認	期末テストの実施
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	同上	同上

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	環境		
必修選択	選択	(学則表記)	環境		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		1 15
使用教材	【新版】保育内容「環境」 学習の手引き		出版社	大学図書出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「環境」の指導に関連する、子どもを取り巻く環境について学ぶ。 子どもと環境との関わりについての専門的知識・技術を身に付ける。				
到達目標	① 保育における環境とは何かを理解し、説明できる。 ② 子どもが環境と関わって成長していくためには保育者としてどう在るべきか考察できる。 ③ 子どもの視点に立った環境を構成する心構えをもつことができる。				
評価基準	修得確認：50％・授業態度：30％・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許				
関連科目	言葉、人間関係				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	勝村 美由紀	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭約12年、保育士9か月、保育士養成校非常勤講師5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【第1講】環境とは何か	環境と5領域としての環境について (第1章 保育とは何か)
2	【第2講】領域 環境のねらい・内容	領域 環境のねらい・内容について (第2章領域「環境」について)
3	【第3講】園のあり方としての環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境・危険への対応、園での環境構成の実際について (第3章子どもの生活と環境とのかかわり、第4章園の環境構成、第5章物とのかかわりと遊び)
4	【第3講】園のあり方としての環境	同上

5	【第4講】科学との出会いと環境	保育における科学について (第9章科学との出会いと環境)
6	【第5講】子どもを取り巻く社会環境	地域社会とのかかわりについて (第11章子どもを取り巻く社会環境)
7	【第6講】自然環境との関わり	自然、季節、動植物、小動物とのかかわりの事例について 命の移り変わりについて、悲しみについて (第6章自然環境とのかかわり)
8	【第7講】数量・図形・文字・標識とのかかわり保育と行事	保育の中で数量を学ぶということについて (第7章数量と図形とのかかわり、第8章幼児と文字・標識のかかわり)
9	【第7講】数量・図形・文字・標識とのかかわり保育と行事	年中行事、その実際・教材研究について (第10章保育と行事)
10	【第8講】環境教育について子どもを取り巻く情報メディア	子どもとコンピュータ・指導計画作成について (第14章子どもを取り巻く情報メディア)
11	【第8講】環境教育について子どもを取り巻く情報メディア	持続発展教育、持続可能な社会について 模擬保育準備 (第13章環境教育について)
12	単元ごとの修得確認	第1講～8講までのまとめ
13	修得確認	本科目の実施内容の修得状況の確認
14	総まとめ	単元ごとのワーク
15	全体総まとめ	本科目の全体を振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの造形表現A		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの造形表現A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	生活事例からはじめる 造形表現 学習の手引き		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造力を豊にする様々な表現遊びや環境の構成等の専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。 ②子どもの経験やさまざまな表現活動と造形を結びつける遊びの展開ができる。				
到達目標	①幼児の感性や表現の姿、発達を理解することができる。 ②さまざまな用具や道具、素材や教材等の特性の理解し、実践することができる。 ③様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊にする。 ④子どもの遊びやイメージを豊にする。				
評価基準	授業態度：50%（制作への取り組みや提出物含む）・修得確認：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	子どもの造形表現B/製作遊びA・B/表現指導法A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	若林 幸代	実務経験	○		
実務内容	保育士3年、書道専任講師7年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	幼児期の造形表現について	造形の意義と幼児期の造形に関する発達について
2	平面表現①	造形で多く使われる平面の素材である絵の具や描画材の性質について
3	平面表現①	平面表現における素材の活用法、応用する術について
4	同上	同上

5	平面表現②	版画を応用した表現方法について
6	平面表現②	幼児造形における版画の活用法について
7	同上	同上
8	立体表現①	粘土について
9	立体表現①	粘土の種類と特性、活用方法について
10	同上	同上
11	立体表現②	立体素材の木や紙の特徴、造形への活用法について
12	立体表現②	立体素材を扱うための道具の使用方法について
13	同上	同上
14	修得確認	修得確認
15	まとめ	振り返り、まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの造形表現B		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの造形表現B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	生活事例からはじめる 造形表現 学習の手引き		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造力を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成等の専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。 ②子どもの経験やさまざまな表現活動と造形を結びつける遊びの展開ができる。				
到達目標	①幼児の感性や表現の姿、発達を理解することができる。 ②さまざまな用具や道具、素材や教材等の特性の理解し、実践することができる。 ③様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 ④子どもの遊びやイメージを豊にする。				
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%/学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	子どもの造形表現A/製作遊びA・B/表現指導法A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	若林 幸代	実務経験	○		
実務内容	保育士3年、書道専任講師7年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	表現の原理(色彩)	色彩の基礎について
2	同上	同上
3	同上	同上
4	協働しての表現	造形における協働での作品制作の在り方について

5	同上	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	保育での模擬保育	造形活動を念頭に置いた指導計画作成の手順について
9	同上	同上
10	同上	同上
11	修得確認	各單元ごとの振り返りやまとめを行い、学習した内容を整理し、改めて理解する。
12	修得確認	修得確認の実施
13	総まとめ	本科目で学んだ技術・保育への展開方法を振り返り製作、発表をする。
14	同上	同上
15	同上	同上

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	音楽理論		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽理論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	子どものための音楽表現技術・保育のためのやさしい子どもの歌一弾き歌い・合奏・連弾・合唱 学習の手引き		出版社	萌文書林、ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児の音楽的遊びや領域「表現」の関連性、幼児の音楽的発達を理解する。 音楽表現が他者の表現への共感や表現を豊かにしていく過程を学び、音楽表現活動計画を立案し実践する。				
到達目標	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の完成や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付け、実践することができる。 幼児の楽器を用いた音楽表現に視点を当て、幼児の音楽的表現の理解や、幼児の感性や音楽表現の育成に繋がる音楽的基礎知識、音楽表現の基礎知識、技能、感性を身に付け、実践することができる。				
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の実績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許				
関連科目	子どもの音楽ⅠA、ⅠB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	渡辺 淳子	実務経験	○		
実務内容	愛知ムジカ少年少女合唱団にて指導者・伴奏者5年勤務、(株)宮地楽器にてヤマハ音楽教室ピアノ講師5年勤務 (株)ヨコオ・ミュージックにてクラシックピアノ演奏者5年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	音楽的な表現 わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴の理解について
2	同上	同上
3	幼児の音楽表現活動～幼児の歌唱活動	初めてのうたの歌唱活動の支援について

4	同上	同上
5	幼児の音楽表現活動～リトミック	リトミックの教育目的・活動方法・遊び方の留意点について リズムやフレーズを用いたリトミックの実践とその理解について
6	同上	同上
7	幼児の音楽表現活動～リトミック ②	拍子を用いたリトミックの実践とその理解について
8	同上	同上
9	幼児の音楽表現活動～オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ボディーパーカッションについて オルフの音楽教育について
10	同上	同上
11	音楽遊びの指導計画の立案 音楽遊びの指導計画立案の理解と実践①	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法について 低年齢児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践について ①楽器活動～卵のマラカスをを用いた「たなばたさま」遊び
12	同上	同上
13	音楽遊びの計画案の理解と実践② 遊びの環境	4、5 歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践②楽器活動～言葉のリズムを用いた「とけいのうた」の合奏 音楽遊びの環境について
14	修得確認	まとめ、修得確認を行う
15	振り返り、まとめ	振り返り、まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どものうた		
必修選択	選択	(学則表記)	子どものうた		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科		15
使用教材	こどものうた 200、続こどものうた 200、保育のためのやさしい子どもの弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	こどものうたを調ごとに分け、特徴も合わせて覚える				
到達目標	年齢に沿ったうたを理解しながらピアノ伴奏の基礎を身につけ、演奏することができる				
評価基準	修得確認：50% 小テスト（発表）：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子どものリトミック A/B、手遊び、子どもの音楽 I A / I B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	渡辺 淳子	実務経験	○		
実務内容	愛知ムジカ少年少女合唱団にて指導者・伴奏者5年勤務、(株)宮地楽器にてヤマハ音楽教室ピアノ講師5年勤務 (株)ヨコオ・ミュージックにてクラシックピアノ演奏者5年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、評価方法について
2	ハ長調のうた② CFGのコード	ハ長調の曲より、生活のうた、CFGのコードで弾ける曲について
3	ハ長調のうた③ CFGのコード	ハ長調の曲より、CFGのコードで弾ける曲について
4	ハ長調のうた④ ハ長調の曲の伴奏	ハ長調の曲の伴奏の基本について
5	ハ長調のうた⑤ 伴奏に旋律のない曲①	ハ長調の曲の伴奏の応用について①

6	ハ長調のうた⑥ 伴奏に旋律のない曲②	ハ長調の曲の伴奏の応用について②
7	ヘ長調のうた①	ヘ長調の曲の基本について①
8	ヘ長調のうた②	ヘ長調の曲の基本について②
9	ト長調のうた①	ト長調の曲の基本について①
10	ト長調のうた②	ト長調の曲の基本について②
11	ニ長調のうた①	ニ長調の曲の基本について
12	その他の調①	変口長調、変ホ長調、変イ長調の曲の特徴について
13	その他の調② 短調の曲	ホ短調、ハ短調の曲の特徴について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ